

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010. 6. 5～6（名古屋工業大学）
企画セッション討議内容の記録

セッション名：わかりやすい案内の実現に向けた標識令改善の方向を探る	
日付： 6月 6日（日）曜日，セッション時間：16:45 ～ 19:00	
オーガナイザー名（所属）：外井哲志（九州大学），若林拓史（名城大学），吉井稔雄（京都大学）	
討 議 内 容	<p>（裏面に個別論文の講評を記述できる欄を設けております。必要に応じてお使いください。）</p>
	<p>本セッションでは，6編の論文発表が行われそれぞれ以下の議論がなされるとともに，全体として，共通のプリンシプルを持つこと，カーナビとの連携を意識した標識整備，視線の仰角が異なる自転車に向けた標識整備の重要性が示された。</p>

(発表番号) 発表者名 (所属): 若林拓史 (名城大学)

道路案内誘導のプリンシプルと統一的体系化の重要性

ドイツや日本における道路案内標識の現状ならびに、現状の標識が抱える問題点が報告され、統一的なプリンシプルを備える必要性があるとの認識が示された。

質疑では、標識の見やすさに関する評価方法について、認知地図と標識のデザインとの関係について意見が交わされた。

(発表番号) 発表者名 (所属): 桶井達彦, 荒木祐二 ((社) 全国道路標識・表示業協会)

道路標識案内システムの問題点と課題

道路標識内に掲げる地名の問題について、現状における掲載基準の紹介があり、今後は路線名あるいは交差点名の整備を行って掲載基準を改善するべきであるとの問題意識が示された。

質疑では、見やすい標識にするためにはすっきりしたデザインにする必要があり、カーナビとの連携も重要である、あるいは道路の階層別に、それぞれの階層に相応しい情報を表示すべきであるとの指摘がなされた。また、標識内の情報量について質問がなされ、協会では6地名までを基準に指導しているとの回答があった。

(発表番号) 発表者名 (所属): 松平健 ((有) PJI), 吉井稔雄 (愛媛大学)

案内標識の問題点と記号化の必要性および今後の方向性

現状の案内標識の問題点が示しながら、標識が備えるべき要件が整理され、同機能を有する標識の一つとして記号化標識が提案された。

質疑では、外国人をターゲットとしてはどうか、といった指摘や、方向別に背景を変え順番をつけて附番してはどうか、あるいはより安全性を向上させるために、カウントダウン標識を設置してはどうか、との提案がなされた。

(発表番号) 発表者名 (所属): 吉井稔雄 (愛媛大学), 松平健 ((有) PJI)

交差点記号化標識の設置効果に関する研究

交差点記号化標識の設置効果検証事例について報告がなされた。

質疑では、被験者に対する教育内容などの実験の設計に関する質問がなされた。また、高齢者を対象に実験を行うべきとの指摘がなされた。

(発表番号) 発表者名 (所属): 小松敏宏, 松浦由佳, 中島俊彦 (高知県), 吉井稔雄 (愛媛大学)

記号化標識「ココマーク高知」の取り組み

高知県で実施されている、記号化標識設置実験について、現状ならびに実施に至る経緯などが紹介された。

質疑では、既存の114系標識との差別化、役割分担に関する議論、あるいは、設置の際に問題となる各機関との調整方法などの議論がなされ、風荷重による設置計算の要があったとの回答があった。

(発表番号) 発表者名 (所属): 外井哲志 (九州大学), 大塚康司, 野村哲郎

案内標識データベースの構築と案内標識の誘導効果の分析

福岡市において整備されている案内標識データベースを用いて、案内標識の誘導効果についてネットワーク解析を行うとの分析事例が紹介された。

質疑では、データベースづくりにはGISが有用なツールとなるのではないかと指摘があった。